

挑み続ける小4レーサー

カートレースとの
出合いは6歳

エンジン音を聞くのが好きな父博文^{ひろふみ}さんに連れられて、

0歳の頃から自動車レースを見に行っていたという崇奨くん。年齢や身長制限をクリアした6歳の時、カートレースを始めました。カートは時速約85^{キロ}で走行。「初めて乗った時から全然怖くなかった」と話す崇奨くんの隣で、母の美穂^{みほ}さんは「心配で、レースの時は私の方が緊張しますが、息子が楽しそうに続けているので応援しています」と優しく見守ります。

練習は、福岡をはじめ県外で行うことが多く、週末は毎週のように朝7時に家を出てサーキットに向かいます。9時ごろから練習を開始し、夕方まで走ることも。練習後は、毎回カートからガソリンを抜き、約1時間かけて車体のメンテナンスをして次に備えます。送迎に加え、このような

車体整備も両親の役目。美穂さんは「整備の知識や経験はなく、周りの親御さんに教わりながら見様見真似でしています」と笑います。

憧れのレーサーを
目指して

昨年は九州の大会で優勝し、全国区のレースに初出場。また、よく利用するガソリンスタンドで出会ったレーサーに練習を見てもらい、コーナーの入り方などの指導を受けるなど、挑戦を続ける崇奨くん。ヘルメット後部には、そのレーサーにもらった空気抵抗を減らす部品が取り付けられています。

「前を走る選手を追い越す時が楽しいです。ずっとカートレースを続けていきたいと思っています」と熱い気持ちを語る崇奨くんの将来の夢は、スーパードライバーの夢に、これからの崇奨くんは走り続けます。

写真左下から／ヘルメット後部には空気抵抗を減らす工夫が／令和3年7月岐阜で開催されたレース時の崇奨くん(EIKO写真館HPより)／獲得したメダルやカップの一部

※車輪とドライバーがむき出しになっているフォーミュラカーを使用する四輪レース

